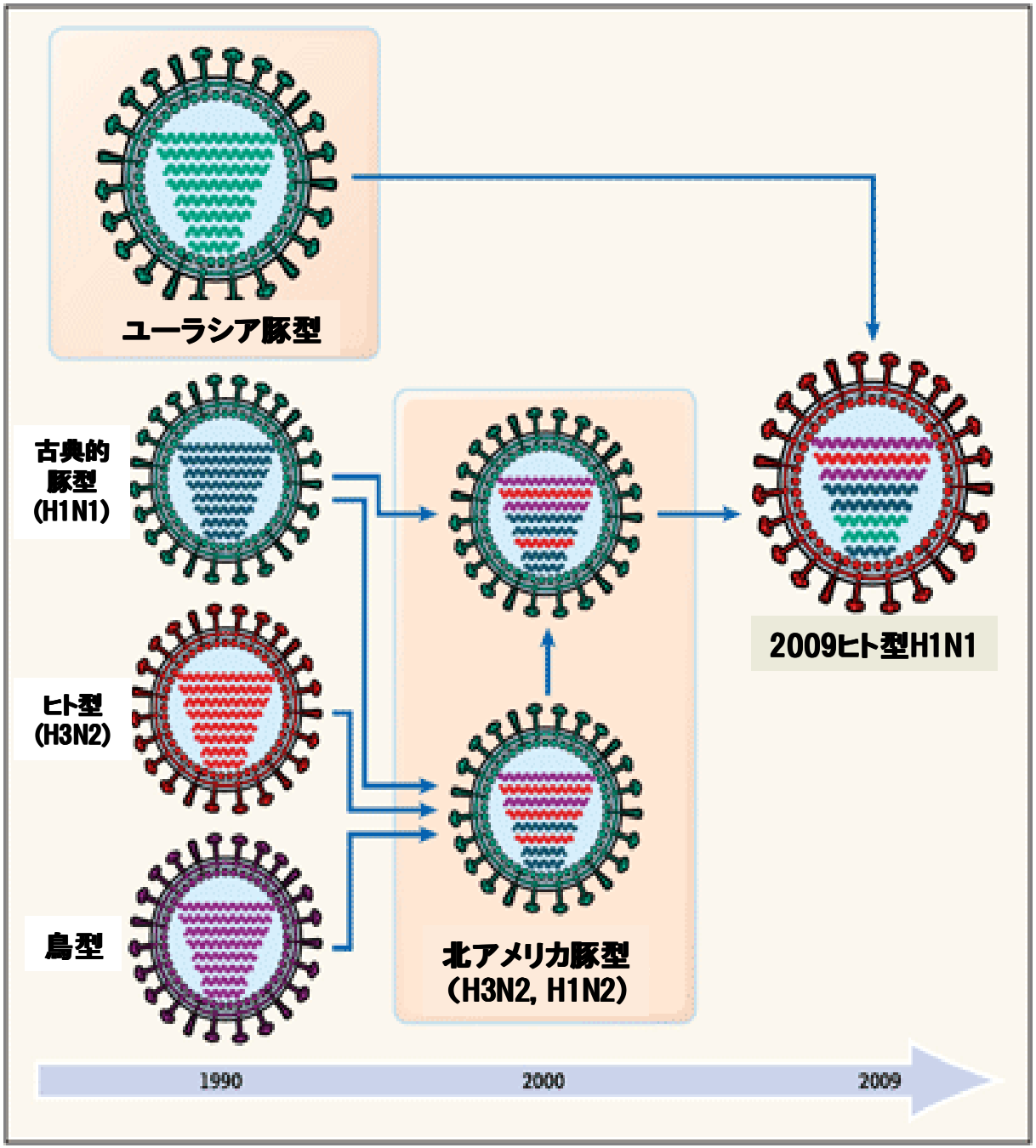
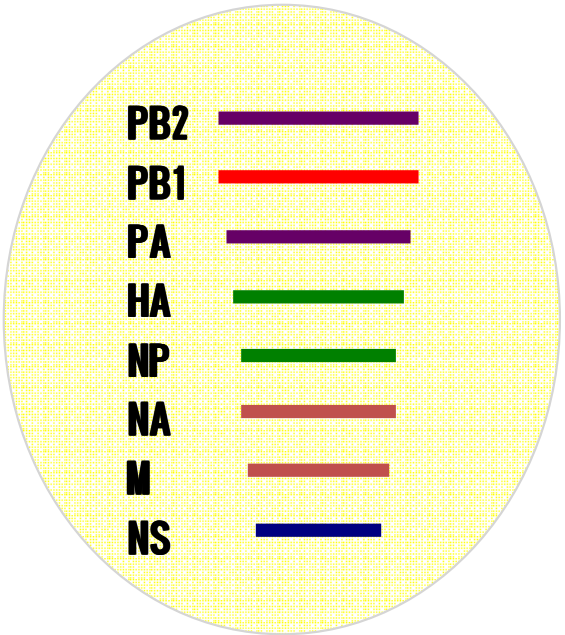
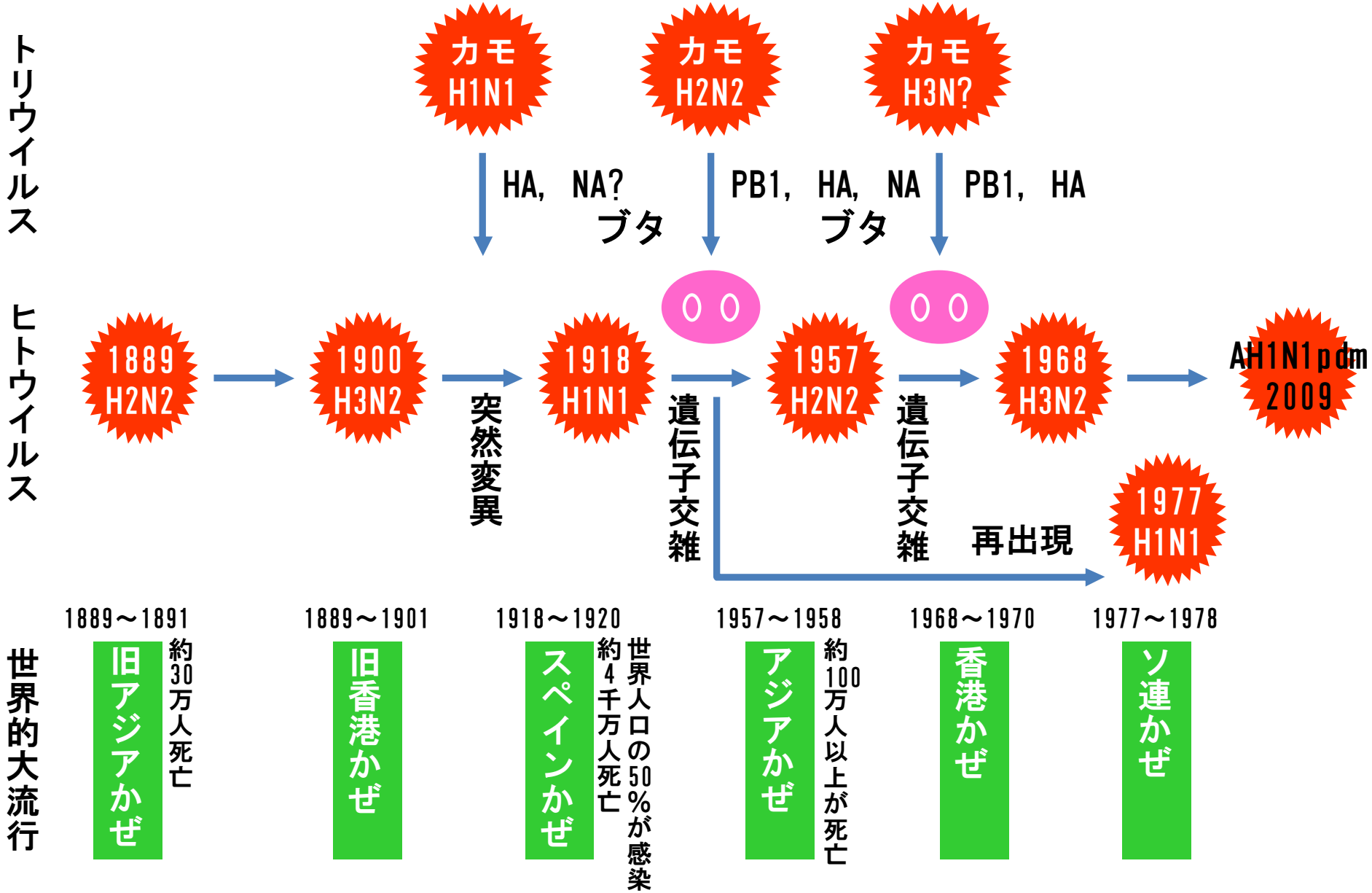
インフルエンザA H1N1pdm2009の遺伝子構成





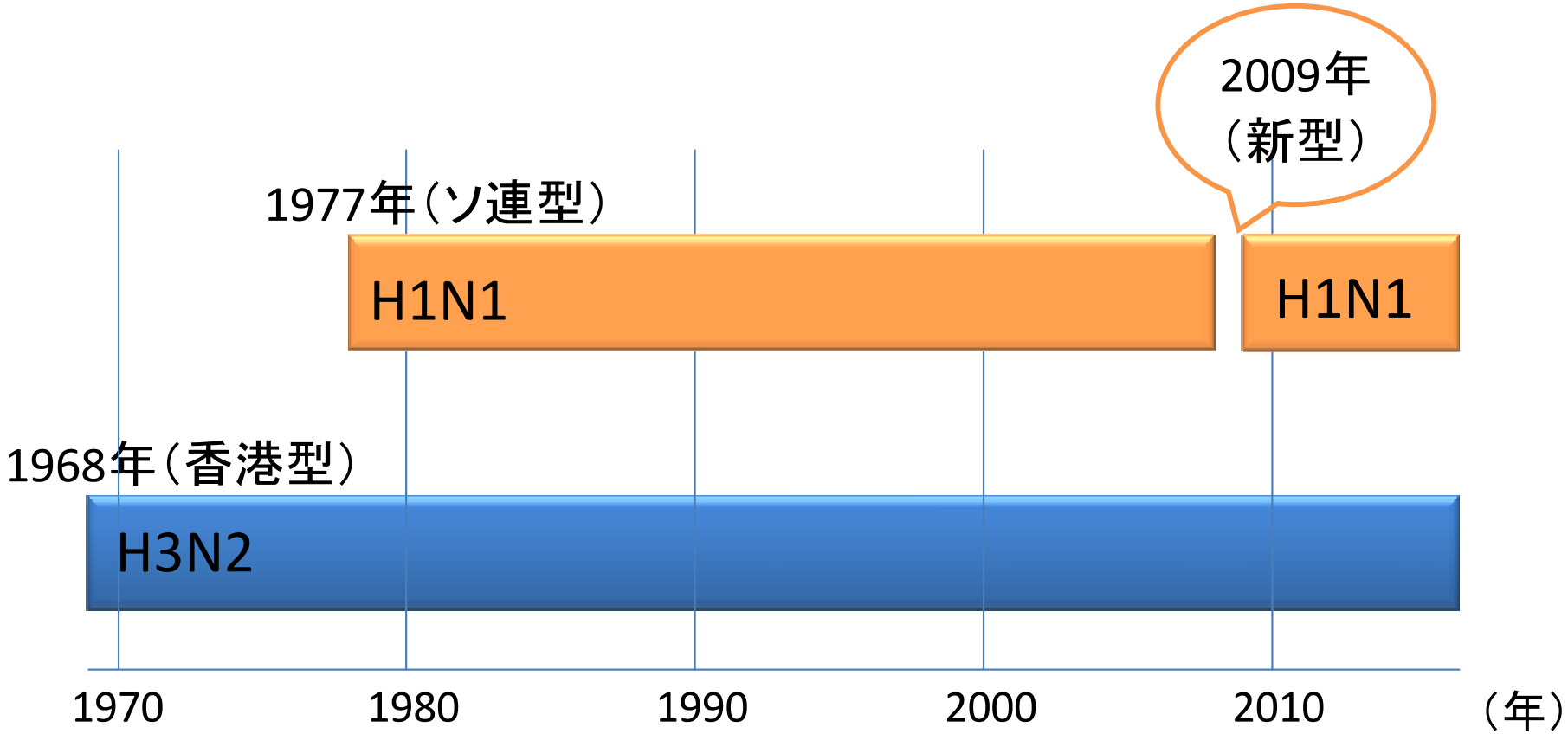
インフルエンザウイルス

抗原シフト（不連続変異）



インフルエンザA型の流行

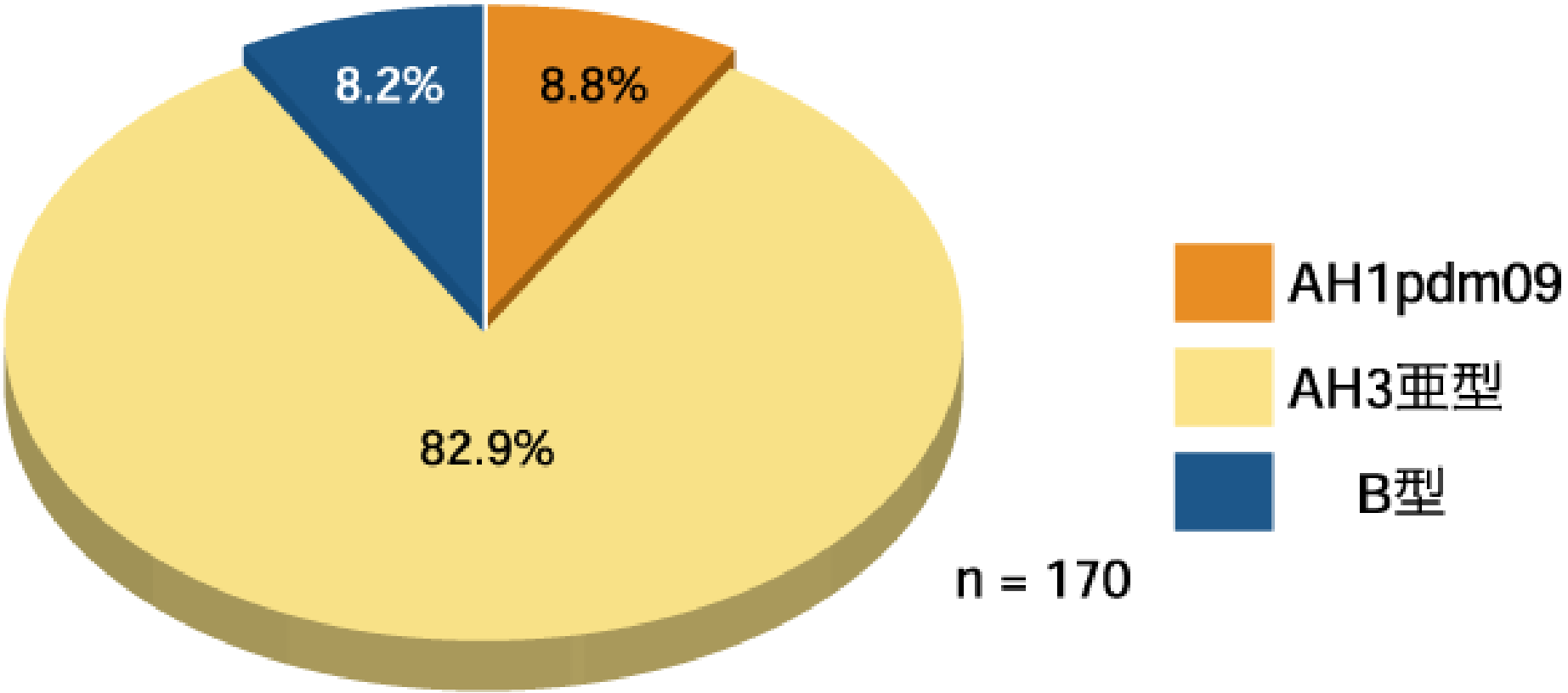
H1N1	これまでソ連型と呼ばれているものが流行していた。2009年に発生した型がソ連型に置き換わって流行している
H3N2	香港型とよばれているもの。1968年から流行している



http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/dl/leaflet20110208_01.pdf

インフルエンザウイルス型別分離・検出割合報告（2012年第36週～49週）

（病原微生物検出情報：2012年12月13日現在報告数）



http://www.nih.go.jp/niid/images/idwr/douko/2012d/img49/chumoku03.gif

インフルエンザと“かぜ”（普通感冒）のちがい

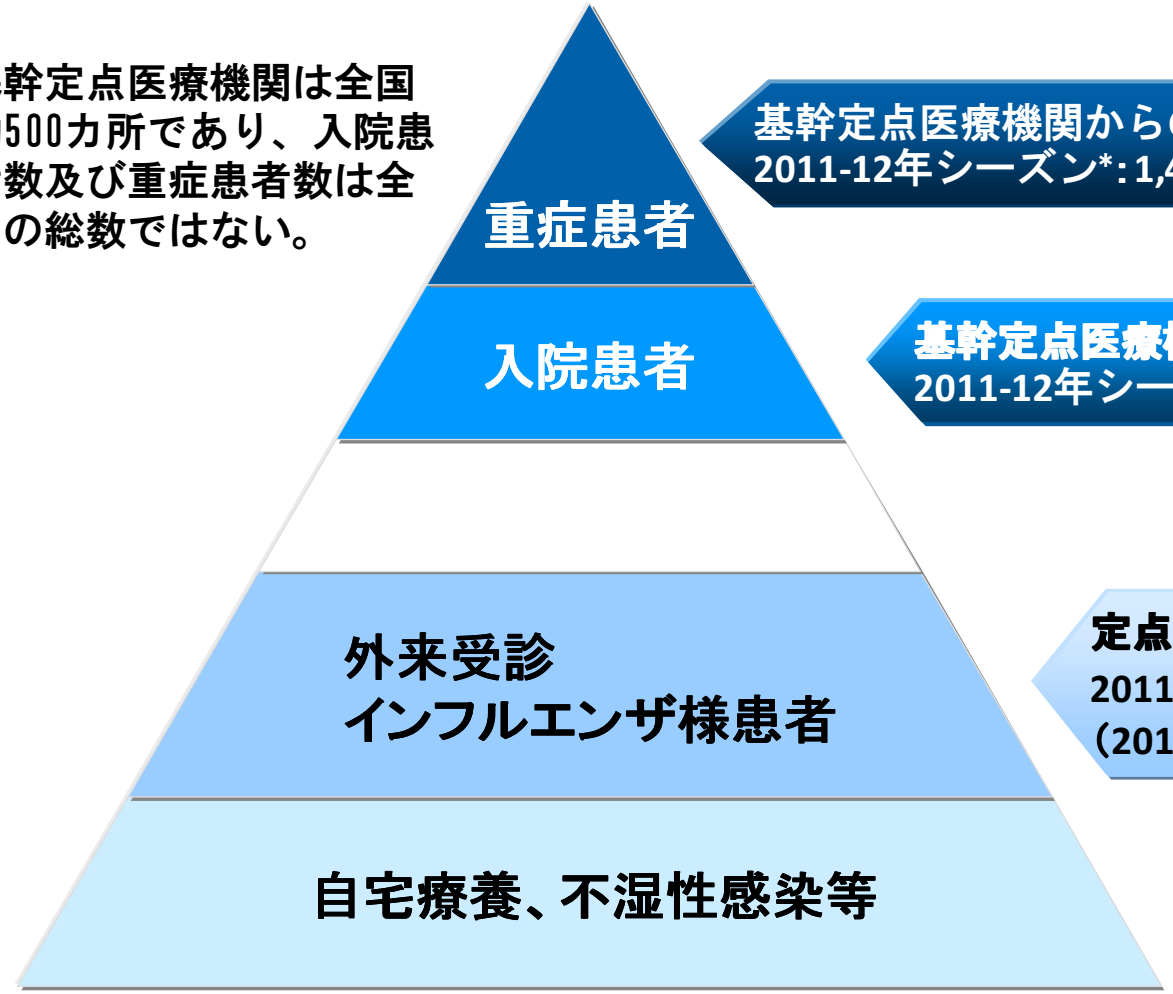
	インフルエンザ	かぜ
初発症状	悪寒、頭痛	鼻咽頭の乾燥感およびくしゃみ
主な症状	発熱、筋肉痛、関節痛	鼻汁、鼻閉
悪寒	高度	軽度、きわめて短期
熱および熱型（期間）	38～40℃（3～4日間）	ないか、もしくは微熱
全身痛、筋肉痛、関節痛	高度	ない
倦怠感	高度	ほとんどない
鼻汁、鼻閉	後期より著しい	初期より著しい
咽頭	充血およびときに扁桃腫脹	やや充血
結膜	充血	アデノではある
合併症	気管支炎、インフルエンザ肺炎、細菌性肺炎、脳炎、脳症	まれ
病原	インフルエンザウイルスA，B	ライノウイルス、アデノウイルス、コロナウイルス、RSウイルスなど
迅速診断法	あり	なし

インフルエンザの重症度

（2011-12年シーズン*）

（2012年5月6日データ）

※基幹定点医療機関は全国約500カ所であり、入院患者数及び重症患者数は全国の総数ではない。



基幹定点医療機関からの報告
2011-12年シーズン*：1,487人

基幹定点医療機関からの報告
2011-12年シーズン*：11,118人

定点に基づく推計受診者
2011-12年シーズン*：約**1,648万人**
（2010-11年シーズン**：約1,159万人）

* 平成23年9月5日から平成24年5月6日の報告まで
** 平成22年9月6日から平成23年3月27日の報告まで

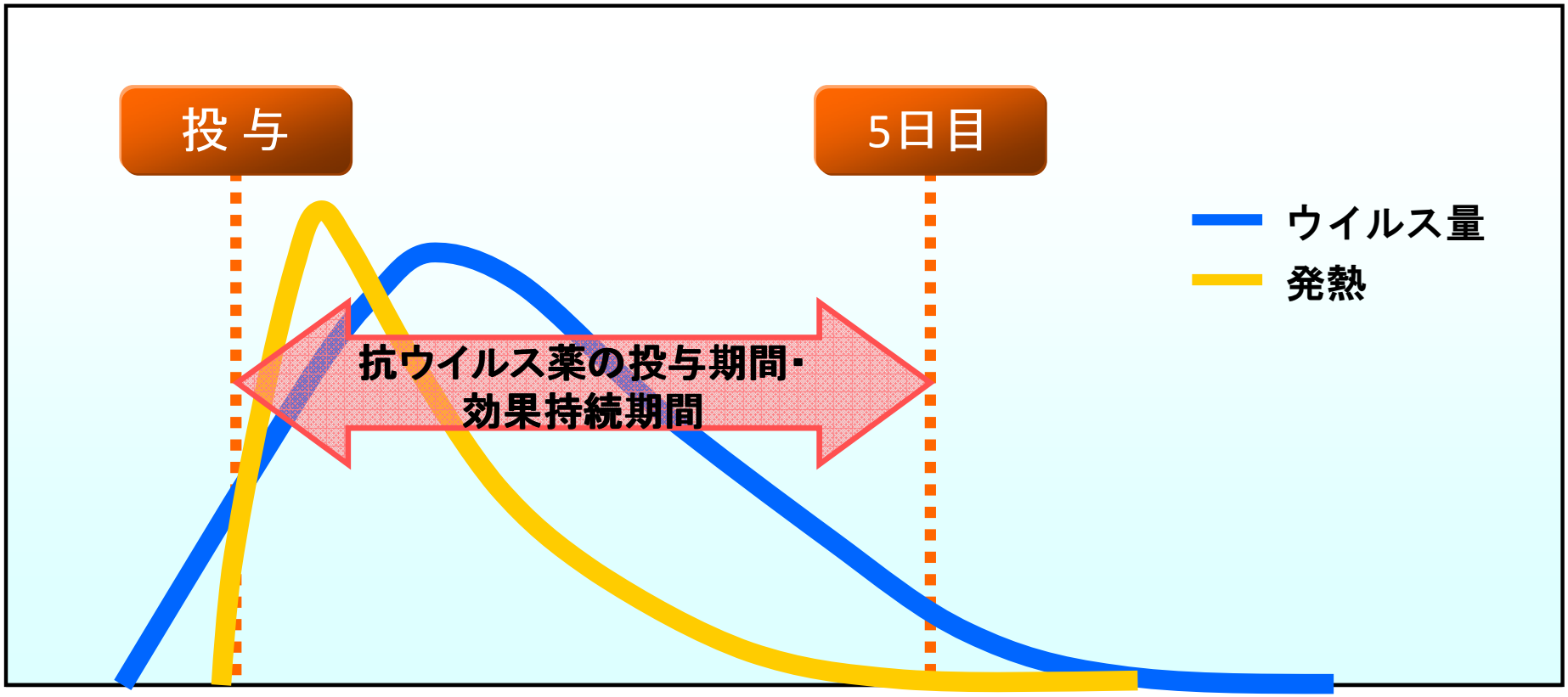
出展：厚生労働省（入院サーベイランス、感染症発生動向調査）

インフルエンザの出席停止期間の見直し
（文部科学省）

昨今、抗インフルエンザ薬が投与され、感染力が消失していない段階でも解熱する状況が生じ、解熱のみを基準にした出席停止期間では、感染症のまん延予防という目的が達成できないおそれがある。

「発症後五日を経過するとウィルスがほとんど検出されなくなる」という研究報告を踏まえ、「発症した後五日を経過し、かつ、解熱した後二日を経過するまで」と出席停止期間を改める

低年齢者ほどウィルス排泄が長期に及ぶという医学的知見を踏まえ、「保育所における感染症対策ガイドライン」（平成21年8月厚生労働省）にならい、幼児は「発症した後五日を経過し、かつ、解熱した後三日を経過するまで」

学校保健安全法施行規則の一部改正（2012年4月，文部科学省）

抗インフルエンザ薬投与後の インフルエンザのウイルス量と発熱